

壬生町庁舎建設委員会 会議録

会議名：第6回壬生町庁舎建設委員会

日時：平成30年4月18日（水） 午後2時～午後3時30分

場所：壬生町役場 2F 正庁

出席者：委員21名

三橋 伸夫、大西 良雄、梁島 源智、山縣 博司、青木 隆司、神永 信男、毛塚 重徳、田中 一男、関本 和夫、藍田 収、松本 幸三、高山 祐子、大友 達示、栗橋 和江、大橋 信行、落合 広美、杉山 孝則、田口 英二、奈良部 好司、佐々木 顯、寺内 宏美
事務局7名

櫻井副町長、出井総務部長、増山新庁舎建設室長、葎葉室長補佐、糸川主査、古川主査、とちぎ建設技術センター（1名）

傍聴人数：5名

【議事内容】

1 開会

・委員長より、今回の会議録署名人の指名を行った。

【会議録署名人：11番藍田委員、12番松本委員】

・委員長より、今回の議事についてはすべて公開としてよいか委員に確認を行った。

⇒委員から異議なしの声があったため、今回はすべて公開とした。

2 前回会議録の確認

委員長より、前回会議録の内容について、修正等がないか確認を行った

⇒委員より特に修正等の意見なし

3 議事

(1) 新庁舎の位置について

委員長) 前回の委員会会で、新庁舎建設の候補地として町有地ということで提示した。町有地に限定した理由としては、新たに民有地を購入するとなると交渉に時間もかかるし、農地転用など法的手続きにも時間がかかることから、事業期間をできるだけ短縮するというで限定をした。そしてある程度の面積がある土地ということで6箇所を提示し、それを利便性、防災拠点性、まちづくりの視点、経済性の4つの視点で事務局が整理したものについて、委員の皆様にごどのように考えるかをお尋ねした。その結果、現本庁舎と、総合運動場のCDグラウンドに意見が集中していたことから、本日は2箇所に絞って、さらにこういう視点での比較が足りないという指摘もあったので、それらを踏まえて事務局の方で詳細な比較表を用意している。その中で追加された項目としては、特にこの現本庁舎が立地する地区についての歴史的・文化的な視点での比較がされていないということで追加をしている。また、CDグラウンドが使えなくなった場合の利用者への配慮や、現本庁舎から仮に移転となると跡地をどうするのかという活性化の問題、その他交通の問題などいろいろなご意見をいただいた。そのあたりについて、事務局より説明もあると思うのでお願いしたい。そして繰り返しになるが、お手元の資料2については、前回の資料に対していただいた意見などを追加して6箇所の候補地を比較したものである。それからこれを2箇所に絞ってもう少し詳しく比較したものとして、お手元の資料というものを用意している。これに基づいて皆様の意見をいただきたいと思うが、あらためて資料について事務局から説明をいただくとともに、その上で皆様からご意見を伺いたい。意見を取りまとめたいので、できれば今回で委員会としての意見を取りまとめていきたいというのが委員長としての考えである。

【葭葉係長より資料の内容について説明を行う】

副町長) 説明に追加して、前回のご要望・ご質問のあった点について現段階での考え方を示したい。まず第1点は、仮に移転することとなった場合、現本庁舎の場所をどうするかについてだが、それが明確にならないと議論も停滞してしまうというお話があり、これについては町としても、これから地域の方や議会とも議論していくことになると思うが、今の町執行部としての考え方としては、ここについてはまちなか創生の拠点としていきたい。具体的には、歴史文化を生かした活性化の拠点としたい。これまで壬生地区ではいろいろな整備を行っており、蘭学通りの電線地中化、城址公園・東雲公園の整備、また役場の前の道路を広げるなどインフラの整備を行ってきた。一方で歴史的な遺産である松本家・石崎家住宅や、常楽寺、精忠神社などがたくさん残っている。そういった今まで整備してきたハードと、歴史的な遺産とかそういったものを生かしたまちづくりをしたい。逆にこれを生かさずそのまま放っておくと、いろいろ整備してきたにも関わらず、空き店舗はどんどん増えているのが現状であり、そういったものを解決していく拠点にしていくべきではないかと考えている。これについては近隣に見本となる事例もあり、例えば栃木市は街なかの大通りに人通りが戻っている。栃木市の場合はもともとの蔵の街の財産があって、官民が一体となってそれを生かすソフト事業をやってきた。もう一つは鹿沼市。街の真ん中にまちの駅をつくり、駐車場が入れないくらい混んでいる。鹿沼の場合はある程度ハード面の整備できかけを作って、その上で若い人たちが動いてネコヤドやカフェなどのお店などが出てきている。壬生のこの地区を見ると、十分に栃木市や鹿沼市に負けない財産がある。これをどう生かしていくかということで、そのための拠点とするということが仮に移転となった場合可能である。それはソフトハード両面でやっていくというのが役場庁内での意見として出ている。そういったことを積極的に進めていきたい。仮にそうなった場合、まだこれから議会などと調整しなければならないので、まだ具体的にペーパーで示すことはできないが、そのように進めたいと思っている。これは役場だけでできる仕事ではなくて、地域と一緒にやっていく仕事だと思っているので、そういった面での積極的な体制づくりはしていきたいと考えている。

それから、第2点目の庁舎へのアクセスの確保だが、比較表の中で駅からの徒歩での距離が出ているが、前回の議論でも高齢化社会が大前提ということでそのアクセスの確保が重要となることは認識している。これについては、駅から庁舎へのアクセス性が重要であることは確かだが、駅から庁舎へのアクセス性だけを取り上げては実はあまり意味がない。現在でも駅から庁舎へ徒歩で来る人はあまり少なく、というのも、まず駅までどのように行くかということもあるため、これは町全体の公共交通のあり方を考えていく必要がある。例えばデマンドバスのあり方とか巡回バスとか、また、街なかもちろんだが獨協医科大学や自治医科大学とのアクセス、あるいはJR線、ここからJRで東京に通っている人もかなりいる。そういった公共交通のあり方は、マクロの大きな考え方と、身近な交通とを総合的にやっていくことが正しいやり方であり、それはおそらく高齢化社会の到来と、もう一つは車の自動運転などもこれから急速に普及すると思う。この前西方で自動運転の実証実験をやったが、5年10年の期間でみるといろいろな点で変わってくる。それらを見据えながら交通のあり方を検討していくというのが町の考えである。これは町長も、壬生町はこれから人口を増やしていくと言っており、これは他の市町と競争になるので、その時に高齢者の足が確保できるかというのが大きいので、その部分を検討していく必要がある。今回の庁舎の話は、移転するしないにかかわらず議論の大きなきっかけとなる。現実には県と壬生町、下野市、上三川町の4者で、バス路線などができないかという検討をしている。なかなか利益などの点でハードルもあるがなんとか持ってきてほしいし、そういった広域のものに加えてデマンドなどの充実も計画的にやっていきたい。これが今回の庁舎を検討するのがひとつのきっかけとなって進むのではないかと考えている。日光市だ

と過疎地がとて多いのでシルバー人材センターが大活躍している。シルバーの車でいろいろなところに運んでおり、そういうのも一つの例である。壬生もデマンドタクシーなどこれまで取り組みは行っているが、こういったものを検討していくべきであり、庁舎と駅間の交通だけにこだわらずに、それももちろん重要だが、全町的な視点から検討したい。

それから、第3点目のグラウンドに移転となった場合のグラウンド利用者への配慮についてだが、これについては、まず現在の利用者の利用を最低限確保する方法を考える。それは応急的なものと長期的なものが考えられるが、いずれにしても現在利用している方が不便にならないよう町で考えていきたい。さらには現在町では昨年度ボルダリングの施設を全部の小中学校、それから体育館に作った。そういったことで健康・スポーツのまちづくりをスタートした。それから新体育館の整備というのも今いろいろな事情で凍結しているが、これもいずれ庁舎の整備の後にはやっていくことになると思う。そういったことで、長期的には健康・スポーツのまちづくりということが進み始めているので、その中でグラウンドのあり方ということも当然やっていくことになると思う。短期的な利用の確保もやっていくが、長期的な視点でのまちづくりということも当然町の仕事としてやっていくことになる。具体的に予算がいくらでというのは、議会にも諮りながらやっていくことになるので、この場で話をすることはできないが、そういった方向で町としては進めていきたい。

以上3つが、前回主にご要望ご質問があった点についての検討状況である。

委員長) 事務局より比較表についての説明と、前回いただいたご意見に対する町としての考えを述べてもらったので、それを踏まえて皆様のご意見を頂戴したいと思う。まずは先ほどの事務局からの説明についての質疑を行いたい。

委員) 資料の詳細比較表について説明をいただいたが、運動場に庁舎が移転した場合に運動場の機能がなくなるという難点を書くべきではないか。表を見ると現本庁舎はマイナス点が多く、総合運動場はインフラ整備の問題だけであとはすべて問題ないというような書き方だが、運動場の問題は大変大きな問題だと思う。ゲートボール、グランドゴルフ、高齢者の健康維持・増進など、スポーツ振興を進めているところである。それを取り上げてしまう形になるということと、それから青少年のサッカーがナイターでやっており、これをどこかに移すとするとどうするのかという点もあるので、運動場を潰すというのは難点があるということ、あるいは検討課題として表に追加する必要があるのではないか。また、ABグラウンドや体育館で大きなイベントがあるときに、CDグラウンドを駐車場として使っていることから、そういった際の駐車場をどう確保するかという点も大事な点なので、その点を表に検討課題として入れておかないと、いい点だけ書いては比較にならない。それから副町長から運動場の利用者の不便がないようにと話があったが、候補地の話が周りの人に少しづつ伝わっており、前回の会議の後の新聞記事でもCDグラウンドが有力という印象もあるので、できれば現在使用している団体と早急に話し合いを進めて欲しい。

委員) 説明いただいた詳細比較表について、冷静な判断でいい表だと思う。何故かという総合評価が空欄である。前回の表(資料2)だと庁内検討組織での総合評価で、CDグラウンドが全体的にバランスのとれた場所であると断定して書いてある。一方現本庁舎は防災拠点性に難があり、仮に庁舎を移転することになった場合跡地を活用した中心市街地活性化の拠点にできると書かれると、インパクトがあって皆様頭に残っていると思う。役場ではここしか考えていないと思える表であり、我々委員に対して決まっていることを説明するだけの場になっているのではないか。

副町長) 資料はあくまでたたき台として前回お示ししたものであるが、私の役場での仕事のやり方として、どうしたらいいのかと聞いてくるのではなくて、こうしたいのだからいかがでしょうかと上げてくるように指導をしており、人と協議をするときもこうしたいのだからどうでしょうか

とお示するやり方をしている。あくまで市内検討組織としてまとめたものを示しており、それを前回も言わせていただいたところだが、ただ、一般的には誤解を生じることではあるのでそれは反省している。

委員長) 質疑が他に無いようであれば、各委員から意見をいただきたいと思う。

委員) 私はトータル的には CD グラウンドの方が良いと思っている。ところで AB グラウンドの西側にも町の土地があったと思うが、それはどれくらいの面積なのか。

事務局) AB グラウンドの西側に細長い駐車場の敷地があり、そこは町有地となっているが、その他は民有地となっている。

委員) 私はやはり CD グラウンドが優れているのではないかと思う。また庁舎新築までの年数が限られている中で、CD グラウンドの方がスムーズに進められると聞いているので、やはり CD グラウンドが良いのではないかと思う。

委員) 前回も述べたが、現時点では CD グラウンドにはやはり納得できないところがある。しかし表を見た限りでは現本庁舎はマイナス点が多く、特にハザードマップ上の浸水想定区域の問題を出されると勝てない。一つお伺いしたいのは、移転するのに仮庁舎の整備に 5 億円、移転費用に 1 億円で 6 億くらいかかることになっている。じゃあこの町から役場が移転したときに活性化にいくらかけるのか。役場が移転しなければ活性化にそんなにお金をかける必要はないが、移転した時には建物の整備に 6 億くらいかけてくれるのか。それくらいお金をかけてくれるのであれば CD グラウンドでもやむを得ないと思うが、移転する場合はそれだけの負担を伴うということであり、町民感情として納得できない。

委員) 役場が CD グラウンドに移転するとなると現本庁舎周辺の地区にかなりの影響が出ると思う。移転が決まったらすぐに活性化に関する組織が立ち上がるような体制づくりをお願いしたい。この商店街にお客が入ってこなくなりかなりダメージがあると思うので、官民一体となって活性化を考えていただきたい。

委員) 跡地利用の問題はあるが、比較評価の資料を見るとやはり CD グラウンドが適していると思う。特に駐車場の問題が一番大きいと思うが、現本庁舎周辺では確保が難しいということであれば、やはり CD グラウンドが適していると思う。

委員) 前回の委員会で仮に庁舎が移転した場合に壬生地区の活性化策を具体的にどうするのか、また現在の CD グラウンドの利用者にどう対応してくれるのか、それらについては今回の副町長からの説明で十分に理解できると思う。また委員長から話があったように、委員会は町長の諮問にいかにか具体的に答えるかということが求められている。先ほど他の委員から意見があったが、行政サイドからある程度具体的なたたき台を提案していただき、それらについて委員会で意見を交換しながら方向性を出していくのが私は良いと思う。

委員) CD グラウンドが道路事情とアクセス性が良好であり、一町二村の中心地であり、一般的には良好であるものと感じている。

委員) 安全安心なところにするのが一番である。CD グラウンドが良い。

委員) 旧壬生町と稲葉地区、南犬飼地区が真の意味で統合するには、新しい場所で全体を見通せるような新しい発想が必要だと思う。先ほど現本庁舎が移転した場合には跡地を中心市街地の活性化の拠点とするとあったが、それだけではなくて行政機能はどうするのか。高齢化が進んでいったときにお年寄りなかなか行くのが難しくなるので、歩いていけるところに支所などがあれば便利だと思う。歴史文化だけでなく、その辺も考慮していただきたい。

委員) CD グラウンドに移転となった場合、現在の利用状況を確認し、早急な検討をお願いしたい。もう一点としてはデマンドバスのネットワークをやっていただくのが良いと思う。

委員) 交通利便性や防災拠点性など諸々を考えると、総合グラウンドの方に庁舎ができればいいものができるのではないかと痛感している。

委員) 今までの話から総合的に判断すると CD グラウンドが一番望ましいと思う。ただし、その場合はこの跡地をどうするかを早目に提案をしていただければと思う。

委員) 私は資料を参考にして考えをまとめるしか術がないが、今回新しく付け加えられた防災上の点や、副町長からの歴史的文化を生かした拠点するという点、交通アクセスについても町全体としてのあり方を考えるべきだというお話を聞いて、より一層 CD グラウンドで進めていただきたいと思った。また CD グラウンドの機能の補完について長期的短期的な視点からという話があったが、できるだけ早めに対応していただければと思う。

委員) 私も災害時の拠点性からいって CD グラウンドに賛成である。また、今年町長からの初訓示があった時にもこれから壬生町は町から市に発展しないとイケないという話があったが、その点から考えても場所的に良いと思う。

委員) 私は CD グラウンドの方が良いと思う。

委員) 私も CD グラウンドが良いと思う。また、CD グラウンドの利用者の件については検討していただけるということであるが、昼から夜まで未来ある子どもたちも頑張っている場所であるので、その点だけは約束していただきたいと思っている。

委員) 私も CD グラウンドが良いと思う。最初の会議の時に壬生町は何十年先を見越してという話もあったが、今のところで建て替えるよりは場所を改めて、そこを中心にしてというわけではないが、新たな考え方をもって壬生町全体を盛り上げていく方がいいので、ここはここで新たな拠点づくりを行って、先を見越して CD グラウンドがベストだと思う。

委員) 栃木県庁と宇都宮市役所に用があって行ってきたが、建物は 1 4 階建てで周りの歩道も広く、商店街もあって、これが県の中心、市の中心という場所であった。壬生町もこの場所で高層ビルを建てるのが一番良いと思う。

委員) 私は、以前勤めていた職場で建物を建て替えるということになり、建替えとなると 1 年くらいかかるのでその間どこかに引っ越して、その間、仮の建物で営業するということになりとても不便であった。これを 2 回経験しており、職員も大変であったし、来られるお客様もガタガタした建物で不便であった。またここで建て替えるとなると場所が狭く、土地も新たに買足すとすると時間とお金もかかるため、どこかに移すべきだと思う。その場所としては資料にもあるとおり CD グラウンドがベストだと思う。合併して 6 0 年が経っており、これまで壬生地区には日光街道に次ぐ宿場町があった中心的な場所であるということで庁舎もずっとここにあったが、北関東自動車道や IC もできて輸送手段も自動車を中心となっていることから、CD グラウンドに賛成である。

委員) 私も CD グラウンドが良いと思う。町の方で人口を増やしていくという目標があるが、その場合やはりハザードマップが一番気になっており、万が一何か起こった時に町民への対応ができないとなってしまうのが怖い。ただ心配なのは、移転となった場合に現本庁舎の場所が空いてしまわないように、同時進行で跡地利用の話も進めて欲しい。またせっかくおもちゃのまちということでバンダイの工場もあるので、それと連携してアピールができるようなものが出れば良いと思う。

委員長) 前回の意見と比較すると、CD グラウンドに移転となった場合に支所機能を壬生地区に残してはどうかという意見が新たに出ているが、それについて事務局に何か考えはあるか。

副町長) 現在は稲葉と南犬飼に支所があるが、ここについても考えていくことになると思う。これは今後の庁舎のあり方を検討していく中で議論していきたいと思うが、長期的には電子化社会も進んでおり、コンビニでも証明書の交付ができるようになってきているため、どういった機能を残す必要があるのかという議論はいろいろあると思う。また、先ほど話した活性化施設というのも商業施設だけではなく、公共的な、町民が集えるような、場合によっては支所的なものも考えられるのでその中で検討していきたい。

委員長) 私なりに皆様の意見をまとめると、前回よりも CD グラウンドを明確に推す方は増えたかなと思う。ただその場合でも、跡地の活用の件、グラウンドの利用者の件、交通の件など懸念はあるが、冒頭でも述べたが委員会として一つの方向を取りまとめていきたいというのが委員長としての意向である。ただその前に鹿沼市の例を紹介すると、ご承知のように今現庁舎の敷地で、仮庁舎を作らずに庁舎の一部を壊して新たに庁舎を建てて、残した庁舎と一体的に使うという構想で設計に入っている。しかし移転したほうが良いのではないかという意見も市民や議員の方にまだあるのも事実であり、というのも同じように基本構想を検討する委員会の中で、現敷地で建て直すというのと、少し南側の黒川に近い市街地の外れに移転するという2つの候補があり、最後に今回と同じように委員一人ずつに意見を伺ったが、ほぼ半々であった。並行して市民へのアンケートを事務局でやっており、そこでもほぼ同数であった。最終的には委員会ではどちらということを決めないで市長に答申し、市長の判断で現敷地ということになった。その理由は、先ほど副町長も言っていたまちづくりの点で、電線の地中化など旧市街地の活性化策をずっとやってきたのが、庁舎が移転してしまうと無駄になる訳ではないがやはりダメージを受けてしまうということと、また黒川に近い移転候補地はハザードマップで浸水の危険があるといった問題があったのだが、設計の段階になっても最初の位置の問題をずっと引きずってきている。

委員の皆様意見を一人ずつ伺って、やはり現本庁舎の位置が良いという意見を明確に表明されているかたが一名いるが、大半の方が CD グラウンドの移転するのが総合的に考えて望ましいというご意見だったと思うので、前回今回と議論をしてきて、ここで結論を出すのは拙速ではないのではないかなと思うので、委員長提案ということになるが、委員会として新庁舎の敷地は総合運動場の CD グラウンドが望ましいということで、それを含んだ基本構想を取りまとめていきたいと思うがいかがだろうか。

【委員より賛成の声】

委員長) それではご支持をいただけたと解して、一番基本構想では大事な点になると思うが、建設候補地については、総合運動場 CD グラウンドにすることが望ましいということで決めたいと思うがよろしいか。

【委員より賛成の声】

委員長) ただ、いろいろな付帯事項として懸念されたことがあるので、これらは基本構想の中に落とし込むことは忘れずをお願いしたいと思う。その他、事務局から何かあるか。

副町長) 新庁舎の建設については、基本的には議会と調整を諮りながら、またこの委員会での意見を聞きながら進めていくということであるが、最終的には基本構想という形で諮問答申をいただきたいと思っている。今回の意見の状況としては、町の考えとしては中間的な状況と考えており、というのは先ほど申し上げた通り議会にも諮りながら、また最終的にはパブリックコメントを実施し決めていくことになるので、今回の意見も重く受け止めながら構想案についても次回諮っていききたいと思う。その中で、当然今回の立地の話もあるが、他にも重要な機能の話などこれまで委員会で詰めてきたものもあるし、付帯意見として検討しなければならない事項もあるので、そういうものを含めた基本構想のたたき台を事務局で作成し、次回ご議論いただきたいと思う。

委員長) 他に何か委員の方から意見などはあるか。特になければこれで定められた議事が終了した

ので、第6回壬生町庁舎建設委員会を閉会したい。

5 閉 会

署 名
壬生町庁舎建設委員会

委 員 松 本 幸 三

委 員 藍 田 收
